

# 雇用就農者は大幅増 1億規模の農業法人牽引

農林水産省は4月28日、令和6年新規就農者調査結果を取りまとめて公表した。  
令和6年（令和6年2月1日～令和7年1月31日）の新規就農者数は4万3500人となり、前年並みの水準を維持した。農業従事者の高齢化が進む中、若手農業者の確保は国全体の喫緊の課題となっている。しかし49歳以下に限ると1万5720人で前年比1・1%減とわずかながら減少しており、次世代の担い手育成が引き続き急務となっている状況だ。

## 自営就農者は減少傾向

就農形態別にみると、新規自営農業就農者は2万9580人で前年比2・5%減少した。このうち49歳以下は6110人で、同4・8%減と若い世代での落ち込みが特に目立つ結果となった。農地の取得・借入れに伴う初期コストの高さや、経営が軌道に乗るまでの収入不安定さなど、自営での独立就農にはさまざまなハードルが存在する。家業を継ぐ形での就農や、自ら農地を確保して独立するケースが伸び悩んでいる実態が改めて浮き彫りとなった形だ。



## 雇用就農者は

### 9・5%増と大幅拡大

一方、農業法人や農業経営体に雇用される形で就農した新規雇用就農者は1万180人で、前年比9・5%と大幅に増加した。49歳以下に絞っても7050人で同2・5%増となっており、雇用型就農が若手にとっての新たな就農ルートとして着実に定着しつつある。給与や社会保険といった雇用の安定性が、農業未経験者の参入障壁を下げている面も大きいとみられる。

出身別では、農家出身者が1410人に対し、非農家出身者が8780人と大多数を占めた。農業と縁のなかった層が雇用を通じて農業に参入する傾向が強まっており、新規学卒者も1640人にのぼった。男女別では、男性6660人（同9・4%増）、女性3510人（同9・3%増）と、男女ともに前年を上回った。

## 大規模農業法人へ

### 就農が突出

雇用先の農産物販売金額規模をみると、販売金額1億円以上の大規模経営体への就農者が4450人と突出して多く、全体の約44%を占めた。次いで5000万～1億円が1450人、1000万～3000万円が1390人、3000万～5000万円が1160人と続いた。大規模な農業法人が雇用の受け皿として重要な役割を担っている実態が改めて示された形だ。

自営就農の減少と雇用就農の増加という二極化の傾向は、農業経営の法人化・大規模化が進む現状を反映しており、今後の就農支援策のあり方にも影響を与えそうだ。

# 新規就農者、前年並み4.3万人

# 唐沢農機サービス通信

6・7月号  
2026年



## ナフサ供給不安の影響

### 農林省が流通実態調査

中東情勢の悪化を受け、石油高騰とナフサ（粗製ガソリン）の供給不安が各業界に影響を及ぼし始めている。  
政府は4月より中東情勢に関する関係閣僚会議を開催。24日に行われた第5回会議では、経済産業省が農村地域における農業機械用燃料の供給確保を報告したほか、鈴木憲和農林水産大臣も農林水産省の取り組みを報告した。

農林水産省は、農業用マルチ・ハウス用フィルム・米袋・食品包装フィルムなど石油由来の農林水産業・食品産業関連資材57項目を対象に流通実態調査を進めている。このうち米袋と農業用マルチの一部に供給懸念があるとの情報を受け、製造事業者と原料調達状況について情報交換を実施。その結果、米袋については「経済産業省の協力の下、原料メーカーからポリエチレンの安定した供給が継続される見通し」、農業用マルチも「当面概ね前年実績の供給が可能であることを確認した」と報告した。



## 経産省と連携し

### 二本柱の対策

今後の対応として農林水産省は、経済産業省と連携し、①原料メーカーへのポリエチレン等の安定供給への働きかけ②製造・流通事業者等への受発注平準化や調達支障時の相談促進を進めるとした。



鈴木農林水産大臣は4月28日の記者会見で「将来の供給への不安や価格上昇、サプライチェーンの一部での原料供給懸念はあるが、何らかの資材で全体として供給が不足する事態は、現状見られていない」と述べた。

## JA全農・生団連も

### 対応に動く

民間では、JA全農がナフサ高騰を受け、4月出荷分から原料樹脂価格が20～40%急騰しているとして、生産・流通資材の値上げを随時実施する方針を示した。

# Googleマップに感想を募集中!

- QRコードを読み取る  
※Googleアカウントにログインが必要です。
- 星の数を選びメッセージを記入  
★★★★★
- 最後に「投稿」ボタンを押す

スタッフ一同  
励みになります!



## 編集後記

中東情勢によるナフサ供給不安は、農業資材から食品包装まで広く波及しつつある。新規就農者は雇用型が増える一方、自営就農の若者離れが進む。工進の新型草刈機のよりに現場の声に込める製品も生まれている。農業の未来は、数字と設計で動く「最強チーム」にかかっていると感じます。

「発行 唐沢農機サービス」

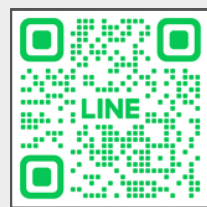
アグリショップ唐沢農機サービス  
〒389-0518 長野県東御市本海野1642  
TEL 0268-62-5262  
FAX 0268-63-7085  
<https://www.karasawanouki.co.jp>

また、国民生活産業・消費者団体連合会（生団連）が会員企業102社に緊急アンケートを実施したところ、「既に影響が発生している」が44%、「3カ月以内に影響予想」が75%に上った。回答企業の半数は食品・飲料メーカー、18%が卸業で、原材料調達難や価格上昇、供給遅延が顕在化。生活必需品への波及懸念が高まるとして、生団連は4月24日、政府に対し正確な情報開示と生活必需品への優先供給体制整備を求める要望書を手交した。

## LINE 公式アカウント ポイントカード始めました!

先着20名様限定!  
お友達追加で **初回来店時にプレゼント!**

- QRコードを読み取って  
お友達登録!
- 来店時、スタッフにお声がけで  
**1ポイント!**
- 5ポイント獲得（5回来店）で  
**オイル交換無料!**



※プレゼントはおひとり様  
1回限りとなります

※1リットルまで  
※オイル交換の日程については、相談の上決定いたします。



## 「押さないラクさ」さらに進化 5月発売 「EFB-53D」

### 株式会社 工進

（株）工進（小原英一社長・京都府長岡京市神足上八ノ坪12）は、昨年春に発売して高い評価を得た自走式エンジン草芝刈機を大幅に改良し、5月に新モデル「EFB-53D」を発売する。前年モデルのヒットの要因となった「押さないラクさ」をさらに磨き上げた意欲作だ。

新モデルの開発にあたっては、利用者から寄せられた「もっとゆっくり進む方が安心できる」「滑りやすい地面でも安定してほしい」といった声を積極的に反映。走行スピードやタイヤ仕様などを全面的に見直した。刈高は30〜90cmの7段階で調整でき、手入れの行き届いた芝生から雑草が繁茂した場所まで、幅広い環境に柔軟に対応する。操作はシンプルで、黄色のレバーを握ると走行し、放すとエンジンが停止する安全設計を採用している。

### スピードとタイヤを改良

### 年配者にも安心

同製品は排気量170立方センチのエンジンを搭載し、本体重量は34kgあるが、自走機構により利用者の身体的負担は小さく、自分の歩行ペースに合わせてスムーズに作業できる。走行スピードは前年モデルの時速3.3kmから3.0kmに変更し、年配の利用者や農作業に不慣れな初心者でも安心

して扱えるよう配慮した。タイヤは直径25cmから30cmへと大幅に拡大し、幅や溝の深さも見直した。これにより雨上がりの濡れた地面や傾斜地でも滑りにくく、安定した走行を実現している。

### 作業効率は刈払機の約3倍

作業効率も大幅に向上している。一般的な刈払機と比べ、10分間に刈れる面積は約3倍に達するという（同社調べ、23立方センチの草の刈払機比）。広い農地や法面の草刈り作業における労力と時間の大幅な削減が期待できる。

安全性にも十分な配慮がなされている。粉碎した草や石の飛散を抑えるフルカバー構造を採用しており、初心者でも安心して扱える。刃には異物との接触時にダメージを抑えるフリー刃を採用し、飛び石リスクを低減。草との接触部は金属で覆い、耐久性も高めている。

### マルチング機能など

### 利便性も充実

刈った草はサイドまたはリアから排出できるほか、粉碎して地面に戻す「マルチング」機能も搭載。土壌の保湿や養分補給にも役立てられる。オプションのグラスバック（PA-540）を装着すれば、芝刈り後の草の回



## 今月のおすすめ農機！

### 新車

### 【OREC スパイダーモア SP753B】

#### 仕様諸元

全長×全幅×全高 (mm) : 1700×550×1100  
 総重量 (kg) : 55  
 排気量 (cc) : 70.7  
 刈幅 (mm) : 500  
 刈高 (mm) : 35~70 (4段階)  
 車速(km/h) : 前進・後進 4段  
 始動方式 : リコイルスタータ



定価  
**¥360,800 (税込)**

収作業も容易になる。主な製品仕様は以下の通り。▽ハンドル下段設定寸法 全長1535×全幅605×全高920mm▽重量 34kg▽刈り幅 530mm▽最大出力 3.8PS▽燃料 燃料タンク容量 0.8リットル▽無鉛ガソリン▽燃料タンク容量 0.8リットル▽燃料消費目安 約50分。

## 農家の嫁・婿の実態調査 最強チームの作り方

「家族で農業をやるって、なんだか素敵」——そう言われることは多い。でも実際に中へ入ると、きれいごとだけでは回らない。農業は天候・相場・繁忙期の波が激しく、さらに地域のつながりや親世代の影響も大きい。夫婦が同じ船に乗った瞬間から、仕事の問題がそのまま暮らしの問題に直結する。

採める原因は性格の不一致ではなく、もっと構造的なものだ。役割が曖昧、権限が不明、評価がない。これだけで、しんどさは簡単に限界を超える。逆に言えば、役割と意思決定を設計できた夫婦は強い。現場と経営が一本につながり、スピードが出る。農業ほど「最強チーム」を作れたときの伸びしろが大きい仕事も珍しい。

### 役割の棚卸しから始める

「手が空いたら手伝って」——この言葉ほど、優しく聞こえて危険なものはない。収穫・出荷・事務など目に見える仕事は認識されやすいが、親世代対応・家事・育児・感情の調整役といった「見えない負担」は、どこにも計上されないまま積み上がる。本人すら「言語化していい負担」だと思っていない。だから限界が来たとき、いきなり爆発する。「なんで今さら？」ではなく、「ずっと言えなかった」が本音だ。

さらには落とし穴がある。責任だけ増えて権限が増えないケースだ。「出荷は任せる、でも規格変更は勝手に決めないで」「事務はお願ひ、でも投資判断は口出ししないで」——これでは任されているようで、決められない。決められないのに、ミスの責任は負う。最悪の構造だ。必要なのは根性ではなく設計だ。どこまで決めていいか（権限）、どう評価されるか（お金・裁量・休み）を「家庭内ルール」として可視化するだけで、関係はかなり改善する。家計口座と事業口座を分け、いくら以上の投資は夫婦で決裁するかを決めておくだけでも「勝手に買った」「なんで今？」が激減する。

パートナーを農業に巻き込む際の合意形成も重要だ。「熱量で押し切る」か「不安を放置したまま進める」パターンは、数年後に大きなひずみとなって戻ってくる。うまくいく家庭は話す順番が違う。夢の前に、生活の設計を出す。初年度からの収支イメージ、繁忙期の家事・育児の回し方、休日の取り方——不安の論点を潰してから進むことで、初めて「一緒にやってみよう」という土台ができる。

### 数字で会話する夫婦が強い

「数字の話をすると空気が悪くなる」——逆だ。数字がないから空気が悪くなる。感覚だけで走ると、忙しさ・疲れ・不満が説明できないまま溜まり、相手のせいに見える。まずは見るべきは3つ——粗利・現金・作業時間。売上は派手だが家計を救うのは粗利だ。農業は現金の出入りが季節で偏るので「黒字なのに税金がない」が起きる。作業時間を見ないと、夫婦どちらかの負担が見えずチームが崩れる。月1回30分の夫婦会議を固定化するだけ

で、会話が喧嘩ではなく会議になる。議題を「先月の振り返り・今月の予定・決めること」の3本柱で固定すると続きやすい。販路別に粗利を分けることも有効だ。「粗利÷作業時間」で1時間あたりの効率が見えると、「あなたのやり方が悪い」ではなく「この販路は時間を食うから仕組みを変えよう」という会話になる。これがチームだ。スマート農業やクラウド会計は、カッコいいからではなく、夫婦の情報格差をなくし採めない経営の土台として機能する。

機械まわりの更新・修繕判断は、家庭内で完結させるほど衝突しやすい領域だ。「修理する？ 買い替える？」「繁忙期に止まったら？」——高額・緊急・専門性が必要な三拍子が揃っているだけに感情的になりやすい。唐沢農機サービスのように、農機の選定・整備・運用まで相談できる外部パートナーを入れると、「買う／買わない」が夫婦の力関係ではなく合理性で決まる。夫婦の間に第三者の専門性が入るだけで、感情の衝突が減る。

### しんどさは構造の問題 設計すれば最強チームになる

農家の嫁・婿がしんどくなるのは、根性がないからではない。役割が曖昧で、権限がなく、評価がなく、二人に寄せる構造だからだ。役割と決裁ラインを決め、数字で会話し、テクノロジと外部の力で負荷を分散する——この設計ができれば、夫婦は最強の経営ユニットになる。農業は暮らしを巻き込む。だからこそ、暮らしを守る仕組みが経営を強くする。継ぐことは責任であると同時に、資産を引き継いで未来を作るチャンスだ。